

令和 2 年度 新型コロナウイルス感染症への対応と今後の取組みについて

各機関における新型コロナウイルス感染症への対応を「感染予防対策」、「高次脳機能障がいに関する研修実施方法等」、「自立訓練等」、「業務体制等」に分類し、記載しています。

また、令和 2 年度の新型コロナウイルス感染症への対応を通して得られた気づきと、次年度以降の今後の取組みについても記載しています。

相談C：大阪府障がい者自立相談支援センター	急総：大阪急性期・総合医療センター
自立C：大阪府立障がい者自立センター	堺リハ：堺市立健康福祉プラザ生活リハビリテーションセンター

	新型コロナウイルス感染症への対応	左記をふまえた、今後の取組み
感染予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ・来所者へ健康状態の確認と来所時の検温、手指消毒の徹底、マスク着用の喚起（相談C・自立C・急総・堺リハ） ・職員は、診察・面談時にゴーグル、アイシールドの着用を徹底（急総） ・面談時にはパーテーションを設置（相談C・自立C・急総・堺リハ） ・訓練実施時における新型コロナウイルス感染症対策の徹底（物品・手指消毒、換気、内容・場所の検討、人数調整等）（自立C、堺リハ） ・施設における新型コロナウイルス感染症対策を、ホームページで案内（自立C） ・利用前面接にオンライン面接対応を導入（自立C） ・施設見学を希望者に施設紹介DVDの視聴に変更して対応（自立C） ・ホームページで医療機関向けのページを作成し、申請書類等を掲載（自立C） ・相談支援において、感染予防対策を講じたうえで、希望者を制限することを実施（堺リハ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続（相談C・自立C・急総・堺リハ） ・入院において、病院の使命に沿ってcovid-19患者のリハビリテーションに貢献（急総） ・相談支援において、訪問による退院前カンファレンスが実施できない場合に、病院側の対応が可能であればオンラインで実施（堺リハ） ・オンライン面接については、本人が一度も来所することなく入所が決定するデメリットはあるが、遠方の場合や本人や家族への負担軽減を考え、今後も継続（自立C） ・ホームページの充実により、申請書類の準備がスムーズになっているような印象があるため、さらに、初めての方にもわかりやすく、障がい者自立センターのことを知ってもらえるよう、中身を充実（自立C）
高次脳機能障がいに関する研修実施方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一感染者が発生した場合に円滑に対応できるよう、会場での講義については、指定席を導入（相談C） ・演習については、会場定員の半数程度の受講者となるように2日に分けて実施（相談C） ・医療機関等職員研修会については、Web配信を導入（相談C） ・高次脳機能障がい支援相談会（行政書士らによる無料相談会）の2回目（1月26日実施分）については、面談形式を原則中止、電話もしくはWeb会議システムを利用（相談C） ・支援普及研修会については、会場の定員を少数とし、Zoomでの同時配信を実施（堺リハ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者養成研修等の講義部分については、Web配信を検討。演習部分については、今年度同様2日に分けての開催とし、密にならないよう受講者数を設定（相談C） ・医療機関等職員研修会については、今年度同様Web配信を検討（相談C） ・高次脳機能障がい支援相談会については、面談形式で資料等を共有しながら対話を進めることで相談支援の質が担保されるという側面もあるため、できる限り面談形式を導入。ただし、来所に不安のある相談者も想定されるため、相談形式は、面談、電話、Web会議システムから選択していただけるように変更を検討（相談C） ・支援普及研修に関しては、引き続きオンライン同時配信を行うとともに、出張勉強会についてもオンラインで実施（堺リハ）
自立訓練等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身の新型コロナウイルス感染症対策の意識付けとして、衛生管理に関する訓練プログラムを作成・実施（自立C） ・日常生活動作の確認については、訓練時の動画を提供してもらい確認（自立C） ・在宅で取り組める認知課題を配布、電話でのモニタリングや健康状態の確認、相談対応、訪問などを実施（堺リハ） ・公共交通機関を使用せずに通所できる利用者については、感染予防に十分に配慮したうえで個別のST・OT・PT訓練を実施し、集団訓練は少人数単位で実施（堺リハ） ・試験的にICTを活用したリモートでのST訓練を実施（堺リハ） ・集団訓練の1グループの人数を減らし、訓練のコマ数を増やして訓練を提供（堺リハ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取組みを継続（自立C） ・ICTの活用に向けて、訓練プログラムの中で模擬テレワークを実施（堺リハ）
業務体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に新型コロナウイルスの感染者が発生し、相談業務の継続が困難となった場合に備え、堺市高次脳機能障がい支援拠点（生活リハビリテーションセンター）と（障がい者自立相談支援センター）の相談支援機能をお互いに補完できる体制を準備（相談C・堺リハ） ・施設内感染防止策の感染拡大状況に応じた見直しと、利用者・利用者家族への周知徹底（自立C） ・感染症対策BCPの随時改訂と発生を想定しての居室準備や対応訓練の実施（自立C） ・1度目の緊急事態宣言中は職員を2グループにわけ、情報共有を行いながら交替で在宅ワークと出勤勤務を導入（堺リハ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取組みを継続（自立C） ・相談支援体制については、引き続き堺市高次脳機能障がい支援拠点（生活リハビリテーションセンター）と（障がい者自立相談支援センター）が連携し、相談対応の機能がストップしないような体制を準備（相談C・堺リハ）